

将来を担う 若手リーダーの育成



澤田 季則 (さわだ としり)

平成12年から国立市消防団員として地域の消防・防災活動に従事しており、その経験から平成22年より立川消防少年団の指導者として少年団員の指導に携わっています。国立市の将来を担う若手リーダーの育成を目標に日々奮闘されています。

立川消防少年団の指導をはじめられたきっかけを教えてください。

市民まつりのパレードで元氣一杯に行進する消防少年団が活気があり楽しそうに見え、一緒に活動したいと思いました。私自身も国立市消防団員として日頃活動しており、消防少年団とともに行う訓練等で団員の様子を見ていたのがきっかけでもあります。

立川消防少年団の活動内容(指導内容)について教えてください。

活動日は基本的に月1回から2回です。内容は規律訓練(気を付け、右下へ做え等)、応急救護訓練、結索訓練、三角巾の使い方などの実技と座学です。初期の消火に対応するための放水訓練もあります。また、国立市・立川市・昭島市の3市で行う合同水防訓練や総合防災訓練、歳末警戒などにも参加しています。

活動(指導)している中で意識していることはありますか。

団員は一泊二日のキャンプ活動、ジャガイモの植え付けから収穫に至る体験活動、クリスマス会などのイベントを通して仲間意識を高め、自助、共助、公助の精神を養います。団員一人一人の得意分野を伸ばし、

苦手分野を克服するお手伝いをしながら、将来の消防活動のリーダーを育成したいと考えています。

立川消防少年団の活動(指導)を通して印象に感じていることはありますか。

団員の中には、災害時に活躍する消防士に憧れての入団が目立ちます。また、近年は少子化の影響もあり、親子同伴での参加が多いです。

男女比率としては、まだまだ男子団員の方が多いですが、少ない女子団員が活動に積極的だと感じます。女子のリーダー団員は活動に欠かせない戦力となっており非常に頼もしく感じています。

今後の、立川消防少年団についての展望を教えてください。

中学生になると塾や部活動が忙しくなり、有望な団員が辞めざるを得ないのが残念です。そのため、中学生団員、高校生団員の好奇心や向上心を満たすプログラムを作る必要性を痛感しています。

また、入団する団員には新規の方もいれば、地域の繋がりがから入団する方も少なくありません。少子化等数々の問題はありますが、今後地域のコミュニティを活性化させることはますます重要な課題です。その繋がりが団員のみならず、多くの方が

消防・防災活動に対して意識を持ち地域を活性化していくために、団員を指導していくことが必要であると感じます。

最後に一言お願いします。

私は現役の消防団員としても活動しているため、消防少年団の活動と重複することも多く、残念ながら活動に参加できないこともあります。この度、市民表彰されたことは大いに励みになりました。今後も慢心することなく、一步一步前進して参りたいと思います。また微力ながら、立川消防少年団活動のお手伝いを続けたいと考えています。



収穫したジャガイモを配布する指導員と団員(左から3番目が澤田氏)